

提案タイトル

Atala Prism Social Implementation :
One Health Project for animal with
TOPPAN etc. : proof of concept for
DATA Liberation from Big Tech

Atala PRISM活用による日本での医療カル
テのDID化の検討

主要提案者の名前

畠山 祥
Akira Hatakeyama

組織応募か、個人としての応募か

会社での応募
Entity

共同提案者たちと追加の参加者

共同提案者:
一般社団法人meta dataコンソーシアム
レイワセダ株式会社
石川雄大
寺本涼馬(ランニングホームラン株式会社)

追加の参加者:
TOPPAN株式会社
株式会社NTTデータグループ(参画同意書未提出)
緑の森どうぶつ病院(株式会社グリーンフォレスト)
Code for Japan
尾身 茂

要求ADA

1,999,000ADA

プロジェクトの実行期間

12ヶ月

解決したい問題点（英語200文字以下）

社会的に有名な企業や政府がAtala PRISMを利用して医療カルテなどの大きな取り組みを社会実装している例がなく、DID/VCでAtala PRISMはメジャーな位置を取れていない。

There are no examples of socially well-known companies or governments using Atala PRISM, Cardano, to implement large-scale initiatives such as medical records, and Atala PRISM has not achieved a major position in DID/VC.

解決方法（英語200文字以下）

法令的により取り組みやすいAtala PRISMを使った動物のカルテを作り、そこで取得したデータの活用方法を行政や大企業とともに検討することで、社会実装のユースケースへと繋げる。

Creating a use case for social implementation by working with Japanese Big Companies to create medical records for animals using Atala PRISM, and makes it easy to implement human medical records.

[SOLUTION] Please describe your proposed solution.

（ソリューションについて言及してください）

・前提

日本は世界有数の少子高齢化社会であり、これに伴う深刻な問題が散見され、いずれも国家として取り組むべき大きな社会問題となっています。そのひとつが医療や介護領域の問題です。医療を支える現役世代の人口は減少していく一方で、サービスを必要とする要医療者及び要介護者は高齢化に伴って増加傾向にあります。この傾向が継続していく中で医療破綻を回避するためには、医療水準の向上及び効率化を避けて通ることはできません。その効率化の面で、我々が大きなポテンシャルを感じているのが、Atala PRISMを利用した電子カルテの実装です。しかし、日本政府としても医療や介護行政機能の効率化のためDID/VCに着目している一方（日本におけるデジタル領域の政策文書である「デジタル日本2024」において、DID/VCについての大きな構想・政策が掲げられています。）、未だ医療情報のDID/VCが社会実装されたユースケースは存在しません。これは人間の医療情報がプライバシーや他の問題から高い参入障壁を持っているからです。そこで、我々は日本の医療問題を解決するために、まずは法規制をはじめとした参入障壁の低い動物医療領域に着目しました。データ関連事業で国内をリードするNTTデータグループ（docomoの兄弟会社）やトッパンがコンソーシアムに参画し、

国内でも動物との距離が近い北海道最大の動物病院(5万人以上の顧客、30万件のペットの医療データを有する)である緑の森動物病院の協力の下で動物カルテの実証実験を行うことで、他の地域・企業・DAOに先んじていち早く医療課題解決、地域活性のためのDID/VCによる健康のデータ管理をCardanoのDID/VC基盤であるAtala PRISMを用いて実装することを目指します。この実証実験を経て、人の医療領域への連携、ノウハウの流用を通じて人と動物の領域を横断した医療サービスに使うことも視野に入れています。そして、医療・健康分野への貢献だけにとどまらず、ビッグテックがデータを寡占していることによるデータ提供者及び利用者の搾取問題やデータ活用範囲の制限を撤廃することにも繋げていければと考えています。

このような連携や活動自体がCardano自体の認知度を大きく向上させ、そしてAtala PRISMの日本だけでなく、世界中の動物や人間の医療領域へ実際に採用をされるための道筋を作ります。また、この連携と実証実験は医療領域だけに止まらず、DID/VC基盤としてのAtala PRISMの全般的な採用を促進するための大きな広告ともなります。

・我々のアプローチ

上記の目標を達成するために、我々はまず理想的なデータ収集や活用のあり方を検討するコンソーシアムを立ち上げて理論構築に関する議論を行うこと、そしてその理論をもとにペットの電子カルテを軸とした実証実験に取り組むことを本プロジェクトで実施します。

本catalystにおいては、資金を用いて以下の4ステップを行います。

- 1.データ収集及びデータ活用に関する検討
- 2.検討した理論に基づく実証実験実施のために必要な各種ツールの開発
- 3.データ収集に関する実証実験
- 4.収集したデータに関しての利活用にあたっての検討

上記4つのステップでDID/VCのデータやビッグデータを活用できる形を検討し、それに即した形でデータを収集する実証実験を行いながら、Cardanoの社会実装を目指します。

各ステップの概要は以下の通りです。

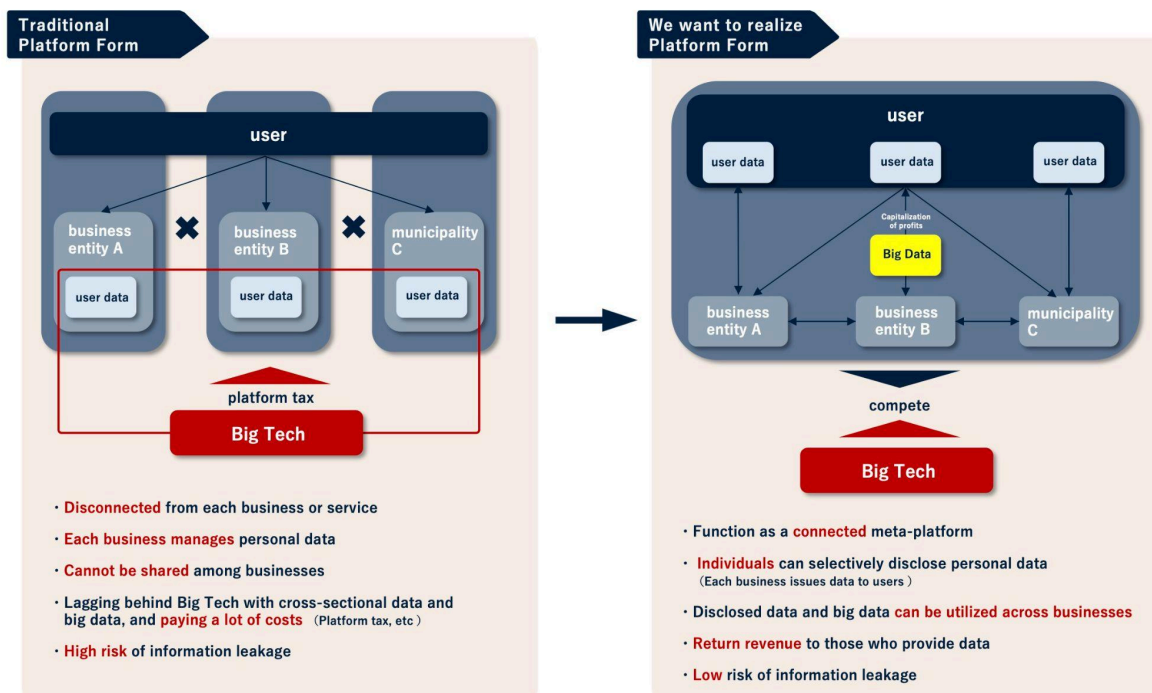
ステップ1 理論検討:DID/VCのデータやビッグデータを活用する上でのデータのあり方や、エコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム、キャッシュポイント、提携すべき事業やサービス等に関して、理想的なあり方を日本を代表するデータ関連事業者を中心としたコンソーシアム内で議論、検討を行う。

共同提案者及びパートナーと共に、当該検討に参画する日本の様々なデータを大量に持つ大企業・スタートアップ・自治体を集める。

以下、想定されている構想図。

The kind of data we want to achieve

Web3×Data Selective Self Disclosure & Meta-platform



ステップ2 ツール開発: 以下の流れが実現できるように、ステップ1で検討した理論・構想を反映させながらプロトタイプ開発を行う。

そもそもデータ化が不十分な、動物(ペット)と動物病院のデータが、DIDに紐付けて蓄積される形を作る(DX化、電子カルテ)。その後、必要に応じてVC化を行う。そして、cardanoのチェーンやDappsも活用してデータを活用しつつ、収益還元も行える形を作る。

具体的には、以下のものを開発する。

- ①動物病院のデータ収集を行うためのDXツールのプロトタイプの開発を行う。
- ②動物の電子カルテ・ライフログ(事前問診のためのaiツールも作成)
- ③動物の電子カルテと紐付いたweb3ウォレット
- ④動物のデータが使われるたびにトークンが付与されるシステム

ステップ3 実証実験: 北海道旭川市にて実証実験を開始。ペット電子カルテやDXツールを北海道最大の動物病院である緑の森動物病院にて利用し、ペットに関するヘルスデータや動物病院の提供できるデータを収集。データをビッグデータ化しつつ、動物病院以外の企業が利活用できるようにデータを編集

ステップ4 利活用検討: ステップ1に参画する企業・自治体で、実証実験で取得できた具体的なDID/VCやビッグデータが実際にどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが追加が必要か検討を行う。

catalyst終了後: あらゆる領域、業界に組み立てた構想を展開するための予算化(日本政府のデジタル田園都市国家構想補助金や各社の予算など)を行う。その上で、ステップ4に参画した企業・自治体のリソース・アプリケーション・サービスと組み合わせて、ステップ4までで実証実験、検討した構想を縦展開・横展開する。その際、各プロトタイプのアップデート及び、ビッグデータをAIを使用して利活用できる形にするツールの開発、提供される個人データ・企業データを各事業者が受領し、自社システムと連携させるためのAPI、各データとそれが

必要な事業者・個人をマッチングさせるためのAIツール等の開発も行う。また、政策提言を行い、政策化、個人情報保護法の改正(データのポータビリティ権の法定化)を行うことも視野に入れている。

・我々が開発するもの

1. 動物病院のデータ収集を行うためのDXツールのプロトタイプ
2. 動物の電子カルテ・ライフログ(事前問診のためのaiツールも作成)のプロトタイプ
3. 動物の電子カルテと紐付いたweb3ウォレットのプロトタイプ
4. 動物のデータが使われるたびにトークンが付与されるシステムのプロトタイプ

データ収集及び活用において、Atala PRISMのDID/VCのソリューションを用いることでデータ活用の幅を広げ、日本におけるデータのさらなる有効利用への道筋をつけます。

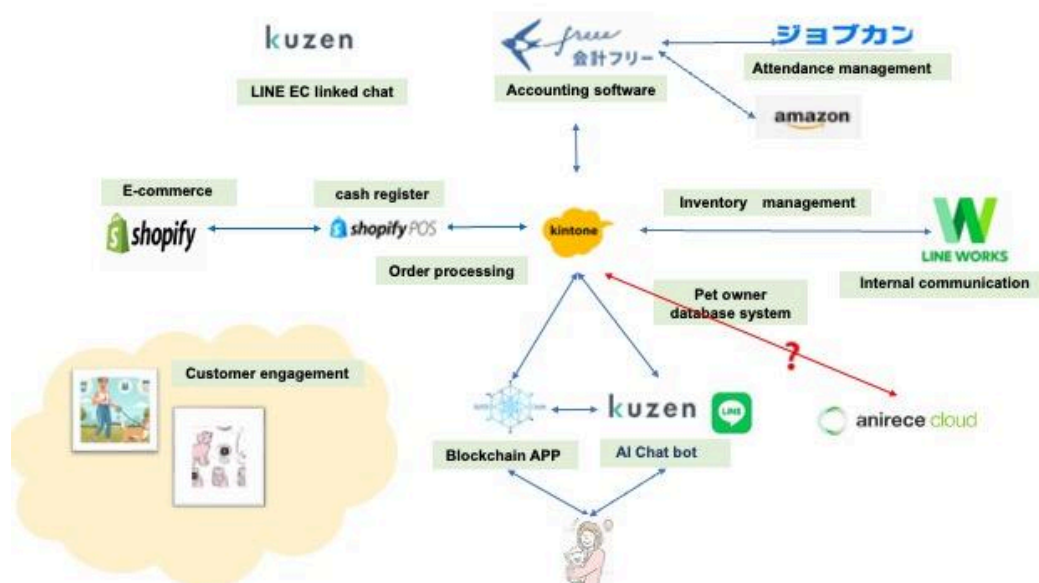
1.動物病院のデータ収集を行うためのDXツールのプロトタイプ

動物病院の業務フロー、既存で使っているSaaSに関して、緑の森動物病院に対してヒアリング及び分析を行い、緑の森動物病院に関するデータの内、飼主・動物から直接取得できないデータを取得できるタイミングと、何についてAI(ChatGPTのAPI)を使ってDX化が行えるかを検討及び特定する。これによって、CardanoブロックチェーンやAtala PRISMのDID/VCを用いて管理/利活用することになる事業者側が持つデータを取得できるようになる。

AI等を使ってDXした上で、飼主・動物から直接取得できないデータを取得できる業務に関して(プロモーション業務、在庫管理、予約管理を想定、ヒアリング、整理及び分析後に確定)、各業務の運用フローを考案し、各運用フローに基づくシステム構築DXツールのプロトタイプを作成する。

プロトタイプにおいては、キントーンと、ChatGPTを使ったAIを活用する。

構成のイメージ図(具体的な機能、UI/UXはヒアリング、整理及び分析後に確定)

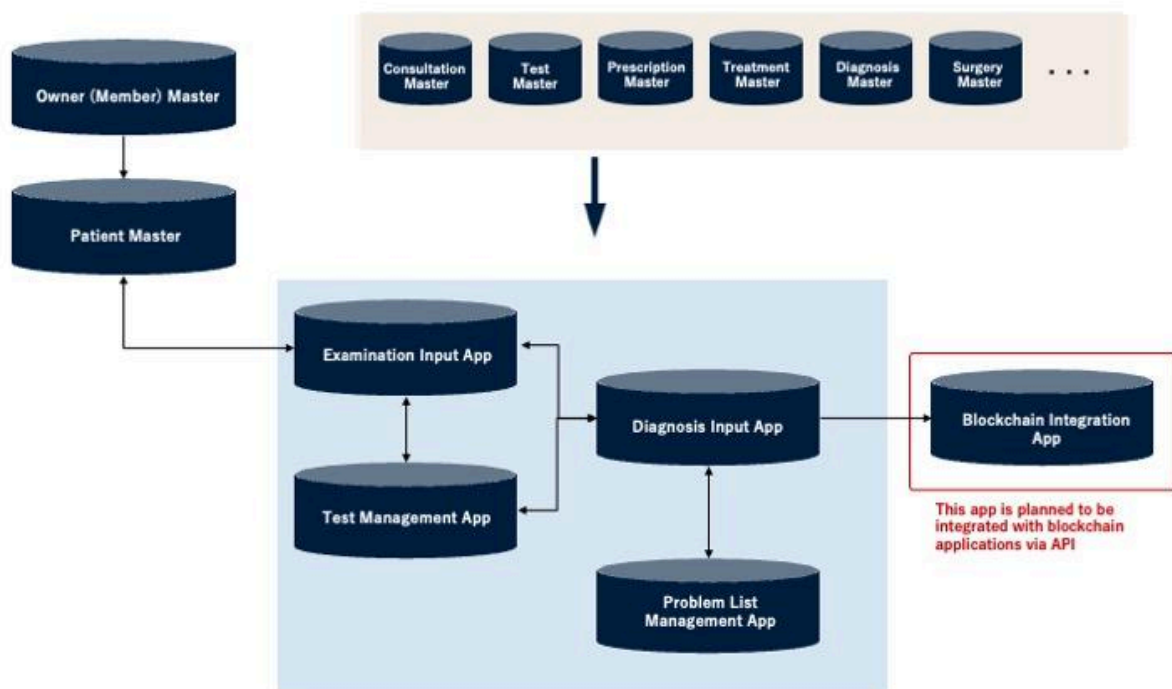


2.動物の電子カルテ・ライフログ(事前問診のためのaiツールも作成)のプロトタイプ

動物病院の事前問診、診察、処方に関する業務フロー、カルテに記載される情報、既存で使っているSaaSに関して、緑の森動物病院に対してヒアリング、整理及び分析を行う。当該業務の運用フローを確立し、運用フローに基づく事前問診、電子カルテ作成のためのシステムをAI(ChatGPTのAPI)も活用しながら、作成する。飼主が操作できるアプリケーションとしては、Atala PRISMを活用して、以下の機能を実装する。

- ①事前問診対応機能
- ②ペット毎のDID付与機能
- ③ペット毎のペット情報・カルテ記載情報の保存機能
- ④保存されているペット情報・カルテ情報の一部を選択してVCとして発行・表示できる機能

以下、構成のイメージ図(具体的な機能、UI/UXはヒアリング、整理及び分析後に確定)



- ①AIチャットサービスの効能1:AI問診サービスによるコミュニケーションコストの削減
AI問診を導入します。事前に問診を行うことで、来院後の煩雑なやり取りをカットします。
- ②AIチャットサービスの効能2:ペットに関する小さな不安や悩みを瞬時に解決
「ペットがお薬を飲まない」「体調が悪そう」などの日々の不安をチャットサービスに投稿すると、獣医師またはChatGPTを活用したAI医師が返事をします。チャット内容は全て電子カルテに反

映され担当の獣医師が確認します。ペットの体を時系列で知ることができます。詳細は下図です。

Benefit 1 of AI Chat Service : Consultation Services

By introducing AI consultation for pre-consultation, we can cut down on tedious interactions after visiting.

Benefit 2 of AI Chat Service: Instant Resolution of Small Worries and Concerns About Pets

When you share your pet's daily health concerns, such as "My pet won't eat" or "They seem unwell," with our AI chat service, an AI vet powered by ChatGPT will provide advice. Your pet's health history will be recorded in a digital medical record for easy tracking by your veterinarian.



3.動物の電子カルテと紐付いたweb3ウォレットのプロトタイプ

仕組み上、VCが蓄積されるDIDウォレットと、トークン・暗号資産・NFTが蓄積するweb3ウォレットとはコネク特しておらず、DIDウォレットの挙動に応じて、web3ウォレットにトークン等が付与される形を実現するためには、技術的なハードルがある。

プロトタイプとして、2の電子カルテ・ライフログのバックエンドシステムとして、特定の動物のDIDウォレットを飼主が管理し、当該飼主のweb3ウォレットと紐付けがなされ、4のシステムが機能する形に開発をする。

4.動物のデータが使われるたびにトークンが付与されるシステムのプロトタイプ

理論検討や利活用検討に従い、どのようなデータがどのように使われた時に、どの程度トークンを付与するか検討する。

検討に応じて、2の電子カルテ・ライフログに蓄積するデータやVCがビッグデータに取り込まれる、もしくはVCが事業者に活用される度に(全てに関してではありません)、飼主のweb3ウォレットにトークンが付与されるシステムのプロトタイプを開発する。パブリックチェーンでトークンを付与する場合、資金決済法上の規制が問題となり得るため、プロトタイプにおいては、オフチェーンもしくはクローズドなオンチェーンでトークンを発行する。

全体としてのCardanoコミュニティに与える影響

前提として、web3技術等を導入し、データを利活用していく領域は、fintech領域以上に今後大きくなると予測されている(数年で数兆ドル規模という予測も存在する:

<https://www.gii.co.jp/report/grvi1363031-blockchain-technology-market-size-share-trends.html>)。その中で、DID/VCやデータの利活用にweb3技術を活用していくために、グローバルスタンダード等を定めようとしているW3C、BGIN(日本の検討会)等の機関が提唱している規格については、特定のブロックチェーンや技術に依存しない形で検討が進められているものの、ユースケースや議論を行っている主体の基盤がEVMということもあり、現状は、当該領域にcardanoが入り込める余地が極めて小さくなっています。基盤の選択について、ネットワーク効果が働きやすいデータ・web3領域において、cardanoがグローバルスタンダード・デファクトスタンダードを作っていくことをリード、少なくとも参画できるポジションを取れないと、今後の巨大マーケットへの参画自体が困難になると考えられています。

その中で、本プロジェクトで立ち上げるコンソーシアムにおいてCardanoのDID/VC活用を検討すること自体が、CardanoやAtala PRISMの認知度を著しく向上し、日本国内、そして国策としてグローバルに展開して行く上で、グローバルでのパブリックブロックチェーンとしてのCardanoの地位向上と、マーケット獲得に大きく貢献することが見込まれます。

その理由として挙げられるのが、コンソーシアムの持つ影響力です。本コンソーシアムには現時点でTOPPANホールディングスの参画が決定しており、NTTデータグループも参画同意書は未提出なものの、参画見込みとなっています。NTTデータグループは時価総額3兆円(2024.10.29現在)を超え、TOPPANホールディングスも連結売上高1.6兆円超(2024年3月期)、時価総額にして1兆円を超える(2024.11.7現在)国内有数のIT企業であり、マーケットにおいても大きな影響力を有しています。このNTTデータグループ及びTOPPANホールディングスのようなweb3領域でビジネスを進める大企業も加わるコンソーシアムでCardanoのDIDを使った実証実験を行うということは、Cardanoの認知向上はもとより、政府がWeb3を推奨している日本においてほかのDappsやアプリケーションなどにもCardanoの採用を進めるに十分なインパクトをもち、Cardanoの開発者を増加させ、トランザクション数を増加させるに大きな効果があると言えます。

また、日本の与党である自民党のデジタル社会推進本部に提言し、日本におけるデジタル領域の政策文書である「デジタル日本2024」に掲載された、DID/VCについての大きな構想・政策を打ち立てたコンソーシアムでの実証実験であり、更には既に自民党のデジタル社会推進本部web3PTの事務局長の川崎代議士等にも応援頂いており、国策として推進してもらえる可能性が高い状況にあります。

また、ペット領域自体もマーケットとして非常に大きなポテンシャルを有しています。2022年の日本のペット市場全体は約1.7兆円であり、2020年の段階では約1.5兆円規模だったが、年々増加傾向にあります。また、ペット寿命が延伸傾向にあり、ペット向けの医療や健康管理サービス、ウェアラブルデバイスなどの技術市場も拡大が予想されており、ペット保険市場も2022年の推定市場規模は約900億円にも上り、ペットの高齢化や飼い主の意識向上により、今後も市場は成長が見込まれます。ペットフード市場に関しても、2021年時点で約4500億円規模を誇り、これらペット関連市場においてCardanoのDappsやNFT、DID/VCが活用されることは、Cardanoコミュニティに対して非常に大きな経済的、認知的なインパクトをもたらす可能性があります。

さらにペットのヘルスデータでの実証実験を終えた後には、人のヘルスデータ領域への横展開を検討しており、この領域は世界でもトップクラスの少子高齢社会となっている日本では非常に深刻かつ注目されているだけでなく、世界中の先進国において少子高齢化のトレンドが迫っている中で、世界においても日本のモデルに注目

が集まっている領域であり、その意味でも本プロジェクトを通じてCardanoへの認知や期待は大きく高まることが予想されます。

その先ではソリューション全体(動物の医療、人の医療、他の業界それぞれ)をグローバルに通用するようにパッケージ化することで、データ利活用におけるデファクトスタンダードとしての地位確立も視野に入れており、その暁にはブロックチェーンを使ったデータの個人管理、選択的自己開示、開示されたデータやビッグデータの横断的利活用において、Cardanoのソリューションがグローバルスタンダードとなり得ます。

実現可能性について・なぜプロジェクトがうまくいくと言えるのか

今回のプロジェクトの中心となるコンソーシアム、及び実証実験への協力団体はいずれも当該領域において大きな影響力や実績を有しており、それらの知見やリソースを活用することでプロジェクトの実現可能性を十分に担保できていると考えています。

コンソーシアムに参加するNTTデータグループ(連結売上高: 4兆3,674億円(2024年3月期)、時価総額3.69兆円超(2024.11.7現在))に関しては、前述の通り日本国内において大きな影響力を有しているだけでなく、web3×データ活用の文脈においても、以下の実績を有しています。なお、参画同意書は未提出です。

自己主権型分散IDおよび認証情報管理ソリューション「KayTrust™」を開発・提供しています(<https://8knot.nttdata.com/solution/product/7988381>)。KayTrustは、ブロックチェーン技術を活用し、利用者自身が分散型IDとデジタル認証情報を自律的かつ安全に管理できるようにするソリューションです。

また、web3開発支援プログラム「web3 Sherpa」を博報堂、スターテイル・ラボと共同で提供開始しており、企業のweb3開発案件を統合的にサポートしています¹。

また、同様にコンソーシアムに参加するTOPPANホールディングスも連結売上高1.6兆円超(2024年3月期)、時価総額にして1兆円を超える(2024.11.7現在)国内有数の大手企業であり、web3×データ活用の文脈においても、以下の実績を有しています。

1. フォトリアルアバターを活用したWeb3.0ウォレット実証実験: 電通グループと共同で、Web3.0ウォレットにフォトリアルアバターをUIとして適用する世界初の実証実験を開始しました(https://www.holdings.toppan.com/ja/news/2023/12/newsrelease231205_2.html)。
2. SBT(ソウルバウンドトークン)活用プロジェクト: TOPPANデジタルとgumiが協力し、SBTを活用して「推し活」の実績をリアル・バーチャル相互で活用できるビジネスの実現を目指しています(https://www.holdings.toppan.com/ja/news/2024/06/newsrelease240607_1.html)。
3. 「AVATECT®」プラットフォーム: アバターの真正性を証明する管理基盤を提供し、SBTやNFT、電子透かしなどをアバターに付与するサービスを展開しています。

さらに、データ収集に関する実証実験に協力いただく緑の森動物病院は本プロジェクト始動以前から動物医療の現場工数に対する危機感から電子カルテを独自に構想しており、そのノウハウを活用できるだけでなく、総患者数5万人以上、年間診療件数約10万件にも上る北海道最大の動物病院グループとして、そのネットワークを通じて実証実験やその先のデータ活用における提携事業者の獲得に大きく貢献してくれることが期待できます。さらに、以前から継続して活動している取り組みを通じて自治体との関係性も良好であり、旭川市を中心とした道内の各自治体との提携も見込んでいます。

また、以下の通り、開発面においても深い知見と実績を有する提携者が揃っています。

●Code for Japan

- 強み: 技術を活用した市民参加型の社会課題解決における深い知見と実績を持ち、市民と行政をつなぐ橋渡し役として重要な役割を果たしています。全国に90の公認ブリゲードを有し、オープンな参加環境と実践的なアプローチで、日本社会のデジタル変革に貢献しています。
- 実績: 福島県浪江町や神戸市でのフェロシッププログラムを通じて、自治体のIT活用を支援。シビックテックの普及やオープンデータの活用促進など、多岐にわたるプロジェクトを成功させています。

●株式会社レイワセダ

- 強み: 生成AI分野で特異な強みを持ち、革新的な動画編集AIプラグイン「Ready」を開発。ユーザーフレンドリーな設計とグローバル展開を視野に入れた開発力で、映像編集の効率化に貢献しています。
- 実績: 複数のビジネスプランコンテストでの受賞や、経済産業省のTechBizプログラムへの採択を達成。主力製品「Ready」の開発を進め、映像編集の自動化機能を実現しています。

●更に、cardano及びDID/VC業界では定評があり、高い評価を得ている企業(守秘義務の関係で現時点では公開不可)が参画致します。

このように、それぞれが知見や実績のある分野からの視点で、Web3技術を使用して作る我々のプロダクト・プラットフォームを磨き上げ、広めようとしていることからこのプロジェクトの実現性は極めて高いと言えます。それぞれの概要についてはチームメンバー欄をご覧ください。

一般社団法人コード・フォー・ジャパン

<https://www.code4japan.org/>

コード・フォー・ジャパンは、IT技術を活用した地域課題の解決を目指して、2013年に設立された非営利団体です。「ともに考え、ともに作る」をコンセプトに掲げ、共創に取り組むことで、市民だけで解決できる社会課題や、市民と行政と連携して解決できる社会の促進に取り組んでいます。具体的な活動としては、市民主体で課題解決を行うコミュニティ作りの支援や、自治体への民間人材派遣などの事業が挙げられます。自治体のオープンデータ活用支援や、データを活用した地域課題解決へのアプローチも手がけてきており、データ活用における実績も数多く有しています。EVMベースのDID/VC開発の知見がある。

株式会社NTTデータグループ(参画同意書未提出)

<https://www.nttdata.com/global/ja/>

株式会社NTTデータグループは、データ通信やシステム構築事業を行うシステムインテグレーターであり、日本最大のITサービス企業で、世界6位の売上高を持っています。国内外300社を超える傘下企業を持つ世界有数のIT企業で、市場に対して大きな影響力を持ちます。web3領域においては、自己主権型分散ID「KayTrust™」の開発・提供を行っており、Blockchain技術を用いたBlockTraceのサービスを提供するなど、知識と実装経験の両面からサポートします。

TOPPAN株式会社

<https://www.toppan.com/ja/>

トッパン株式会社は日本の総合印刷会社であり、国内印刷業界2強の一角で、世界最大規模の総合印刷会社でもあります。日経平均株価の構成銘柄の一つにも数えられ、印刷事業だけではなく印刷テクノロジーをベースにした「情報コミュニケーション事業分野」、「生活・産業事業分野」および「エレクトロニクス事業分野」の3分野にわたる幅広い事業活動を展開しています。web3.0文脈においても、フォトリアルアバターを活用したWeb3.0ウォレット実証実験を世界で初めて行うなど³、日本をリードしています。

パナソニックホールディングス株式会社(検討中)

<https://holdings.panasonic.jp/>

パナソニックホールディングス株式会社は、日本の大手電機メーカーの親会社であり、時価3兆円を超える(2024.11.6現在)大手企業として、日本のマーケットにおいて大きな影響力を有している。その豊富なリソースを活かして、株式会社電通グループらと共同で、環境課題や人権課題などに対する社会貢献行動を促進するブロッ

クチェーン技術を活用した基盤開発のプロジェクト1に取り組むなど、ブロックチェーン領域においても業界をリードしている。

緑の森どうぶつ病院グループ

<https://midori-no-mori.jp/>

緑の森どうぶつ病院は北海道最大のグループ病院であり、グループ病院全体での年間診療件数も道内最多の約10万件にも上ります。旭川市にある旭神センター病院を中心に、道内で7つの拠点を構えながら、北海道におけるペットや動物の健康を守り続けています。

レイワセダ株式会社

<https://www.reiwaseda.com/>

レイワセダは動画・音楽等クリエイティブ制作とそれに関する人工知能・ソフトウェア開発を軸に事業を展開する日本のスタートアップ企業。クリエイターの単純作業を自動化するSaaSを展開するなど、人工知能・ソフトウェア開発領域に強みを持つ。

尾身茂

以下の通り、国際的な公衆衛生や感染症対策、そして国内外の医療政策に関する深い知見と実績を持つ。

1. 世界保健機関(WHO)での経験:
 - 1990年からWHO西太平洋地域事務局に勤務
 - 1999年から2009年までWHO西太平洋地域事務局長を務める
 - ポリオ根絶やSARS対策などで陣頭指揮を執る
2. 感染症対策の専門家としての活動:
 - 2009年の新型インフルエンザ流行時に政府対策本部専門家諮問委員会委員長を務める
 - 2020年からは新型コロナウイルス感染症対策専門家会議副座長、分科会会長を務める
3. 国際保健分野での活動:
 - WHO執行理事を務める
 - 2013年に世界保健総会の会長を務める
 - 2016年に国連総長の要請で国際健康危機タスクフォースのメンバーに就任
4. 公衆衛生・地域医療の専門家:
 - 自治医科大学卒業後、地域医療に従事
 - 現在は公益財団法人結核予防会理事長を務める
5. 政府関係の要職:
 - 厚生労働省参与、外務省参与などを歴任

web3 エンジニア 石川 雄大

経歴:

https://www.wantedly.com/id/yuudai_ishikawa_e

[CodeFoxにて取引所のカストディアルウォレットの開発やデジタルウォレットのリサーチや提案、技術リサーチを担当した後、海外のチームとダイナミックNFTやWallet開発、DIDとVCの技術的リサーチと構築などを経験。現在はDigital PlatfomerとしてDIDとVCのアーキテクチャの設計やRustでのスマートコントラクト開発等を行っている。](#)

プロジェクトのマイルストーン

Milestone 1: 2025/1~2025/3

コンソーシアムの立ち上げ・データ取扱に関する理論検討

マイルストーン1では以下のアウトプット(成果物)を出します:

DID/VCのデータやビッグデータを活用する上での、エコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム、キャッシュポイント、提携すべき事業やサービス等に関して、議論、検討を行うための日本を代表するデータ関連事業者や有識者を中心としたコンソーシアムを立ち上げる。そのために、共同提案者及びパートナーと共に、当該検討に参画する日本の様々なデータを大量に持つ大企業・スタートアップ・自治体を集める。この立ち上げへの協力、及びコンソーシアムにおける議論の積極的な役割を、NTTデータグループ(参画が決定した場合)、TOPPANなどの各参画企業・スタートアップに担っていただき、尾身茂先生にもアドバイザーとして入って頂く。

上記の成果物を納品するために、以下の活動を行います。

定期的な勉強会: 日本を代表するデータ関連事業者や有識者を中心としたコンソーシアムにて検討会を実施する(計12回)。

関連事業者の巻き込みのためのプロモーション: 検討に参画する日本の様々なデータを大量に持つ大企業・スタートアップ・自治体を集めるためのオンライン説明会(計6回)、

リサーチ: DID/VCのデータやビッグデータを活用する上での、エコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム、キャッシュポイント等に関して、理想的なあり方を検討する上で必要なリサーチを行う

資料作成: DID/VCのデータやビッグデータを活用する上での、エコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム、キャッシュポイント等に関する理想図のアウトプット資料を作成する

成果物が以下の基準を満たした場合、「合格」とする。

- ①上記の会に関する議事録や録音などが公開されている。
- ②リサーチ: 必要なステークホルダーの洗い出しと、そのステークホルダーへのインタビューが行われたものがまとめられ、この先の動き(開発など)に対して必要な情報が網羅されている。

マイルストーン完了の証拠

マイルストーン完了の証拠として、以下を提出する:

①DID/VCのデータやビッグデータを活用する上でのデータのあり方の、エコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム等の理想図のアウトプット資料

②検討・議論に参加した企業のリスト(コンソーシアム参加企業は企業名を公表、参加のみの企業はイニシャルの公表。公開先はレビューアに限定)

Milestone 2: 2025/04~2025/05

実証実験に必要なツール開発のためのリサーチ

マイルストーン2では以下のアウトプット(成果物)を出します:

ステップ1で検討した構想に沿って、動物の電子カルテ・ライフログ(事前問診のためのaiツールも作成)、動物の電子カルテと紐付いたweb3ウォレット、動物のデータが使われるたびにトークンが付与されるシステム、動物病院のデータ収集を行うためのDXツールのプロトタイプの開発を行うために、以下の事項についてヒアリング、リサーチ、整理及び分析等を行い、各業務の運用フローを考案する。コードフォージャパン、web3エンジニア石川雄大、レイワセダ、公開不可の開発会社が主に担当する。実証実験のためのヒアリング、リサーチに関しては緑の森動物病院にご協力いただく。

- ①緑の森動物病院に関するデータの内、飼主・動物から直接取得できないデータを取得できるタイミングと、何についてAIを使ってDX化が行えるか
- ②動物病院の事前問診、診察、処方に関する業務フロー、カルテに記載される情報、既存で使っているSaaS
- ③上記以外の動物病院の業務フロー、既存で使っているSaaS
- ④理論検討に従い、どのようなデータがどのように使われた時に、どの程度トークンを付与するか

上記の成果物を納品するために、以下の活動を行います。

ヒアリング: 上記①~④について、緑の森動物病院にヒアリング(必要に応じて、他の動物病院にもヒアリング)
リサーチ: 類似サービス、使用しているSaaSについてリサーチ

整理及び分析: マイルストーン1の結果やヒアリング及びリサーチを踏まえて、既存の業務フロー及び課題、取得しているデータ項目・カルテの内容を整理・分析した上で、各業務の運用フローを考案する。

トークン設計: 理論検討に従い、どのようなデータがどのように使われた時に、どの程度トークンを付与するかを検討する

成果物が以下の基準を満たした場合、「合格」とする。

- ①ヒアリング: 緑の森動物病院に対して、収集可能なデータや活用ポテンシャルの高いデータ等に関して計3回のヒアリングを実施
- ②①のヒアリング内容を網羅的にまとめた資料の作成及び提出

マイルストーン完了の証拠

マイルストーン完了の証拠として、以下を提出する:

既存の業務フロー及び課題、取得しているデータ項目・カルテの内容を整理・分析した資料、新たに考案した各業務の運用フローの資料、トークン設計(アップデートを前提とする)の初期的な資料

Milestone 3: 2025/06~2025/07

実証実験に必要なツール開発のための仕様書・UI/UXの確定

マイルストーン3では以下のアウトプット(成果物)を出します:

以下のツール又はシステムのプロトタイプ仕様書、mocを作成し、UI/UXを確定させる。仕様設計については、開発を主導するコードフォージャパン、web3エンジニア石川雄大、レイワセダ、公開不可の開発会社に中枢を担っていただく。

- ・動物病院のデータ収集を行うためのDXツール
- ・動物の電子カルテ・ライフログ(事前問診のためのaiツールも作成)
- ・動物の電子カルテと紐付いたweb3ウォレット
- ・動物のデータが使われるたびにトークンが付与されるシステム

上記の成果物を納品するために、以下の活動を行います。

仕様書の作成: マイルストーン2でのリサーチを踏まえて、上記のツール又はシステムのプロトタイプ仕様書を作成する。

mocの作成: figma等でUI/UXのデザインを行い、mocを作成する。

成果物が以下の基準を満たした場合、「合格」とする。

- ①上記ツール及びシステムの仕様書の作成
- ②仕様書に基づくmocの完成

マイルストーン完了の証拠

マイルストーン完了の証拠として、以下を提出する:

以下のツール又はシステムのプロトタイプのUI/UXを含む、仕様書、moc

- ・動物の電子カルテ・ライフログ(事前問診のためのaiツールも作成)
- ・動物の電子カルテと紐付いたweb3ウォレット
- ・動物のデータが使われるたびにトークンが付与されるシステム
- ・動物病院のデータ収集を行うためのDXツール

Milestone 4: 2025/07~2025/09

実証実験に必要なツール開発

マイルストーン4では以下のアウトプット(成果物)を出します:

以下のツール又はシステムを開発する。システム開発についてもマイルストーン3に引き続き、開発を主導するコードフォージャパン、web3エンジニア石川雄大、レイワセダ、公開不可の開発会社に中枢を担っていただく。

- ①動物病院のデータ収集を行うためのDXツール

プロモーション業務、在庫管理、予約管理を想定、マイルストーン2のヒアリング、整理及び分析後に確定

- ②動物の電子カルテ・ライフログ(事前問診のためのaiツールも作成)

事前問診、電子カルテ作成のためのシステム

Atala PRISMを活用して、以下の機能を持つ飼主が利用するアプリ

- ・事前問診対応機能
- ・ペット毎のDID付与機能
- ・ペット毎のペット情報・カルテ記載情報の保存機能
- ・保存されているペット情報・カルテ情報の一部を選択してVCとして発行・表示できる機能

- ③動物の電子カルテと紐付いたweb3ウォレット

②の電子カルテ・ライフログのバックエンドシステムとして、特定の動物のDIDウォレットを飼主が管理し、当該飼主のweb3ウォレットと紐付けがなされ、④のシステムが機能する形のシステム

④動物のデータが使われるたびにトークンが付与されるシステム

マイルストーン3のトークン設計を反映し、電子カルテ・ライフログに蓄積するデータやVCがビッグデータに取り込まれる、もしくはVCが事業者に活用される度に、飼主のweb3ウォレットにトークンが付与されるシステムのプロトタイプ

上記の成果物を納品するために、以下の活動を行います。

緑の森動物病院の業務で利用できるレベルのフロント開発

バックエンドの開発

ブロックチェーンの開発

ユニットテスト

マニュアルテスト

バグ修正

デモビデオの作成

成果物が以下の基準を満たした場合、「合格」とする。

①上記システム及びツール開発の完了

②①に生じたバグの修正

マイルストーン完了の証拠

マイルストーン完了の証拠として、以下を提出する：

①YouTubeのアプリのデモビデオ：一般に公開されコミュニティの人が自由にアクセスできる

②公開可能な部分のコードがコミュニティにGithubで公開される

Milestone 5: 2025/10~2025/11

開発したツールを用いて実証実験を行う

マイルストーン5では以下のアウトプット(成果物)を出します：

北海道旭川市にて実証実験を開始。開発したペット電子カルテやDXツールを北海道最大の動物病院である緑の森動物病院にて利用いただき、ペットに関するヘルスデータや動物病院の提供できるデータを収集。データをビッグデータ化しつつ、動物病院以外の企業が利活用できるようにデータを編集。実証実験には緑の森動物病院に全面的にご協力いただく。

上記の成果物を納品するために、以下の活動を行います。

ユーザーオンボーディング

実証実験(ツールの導入と、実際の活用)

データをビッグデータ化しつつ、動物病院以外の企業が利活用できるような形でデータの編集(必要に応じて、緑の森動物病院が保有する既存の30万件の動物医療データも活用する)

ユーザーの受け入れテスト

必要があればバグの修正

ユーザーフィードバックの分析
実証実験のレポートの作成

成果物が以下の基準を満たした場合、「合格」とする。

- ①緑の森動物病院への業務への実装
- ②緑の森動物病院の実証実験協力への承諾
- ③実証実験によって把握した、社会実装するにあたってのデータ抽出やビッグデータ化に関する課題や改善点等をまとめたレポートの作成、提出

マイルストーン完了の証拠

マイルストーン完了の証拠として、以下を提出する：

- ①上記合格基準を満たした実証実験のレポート作成及び提出

Milestone final: 2025/12~2026/1

収集したデータについての利活用にあたっての検討

マイルストーンfinalでは以下のアウトプット(成果物)を出します：

ステップ1に参画する企業・自治体で、DID/VCやビッグデータがどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが必要かの検討。この検討はコンソーシアムにて行い、その議論の積極的な役割をNTTデータグループ(参画が決定した場合)、TOPPANなどの各参画企業・スタートアップに担っていただき、尾身茂先生にもアドバイザーとして入って頂く。

上記の成果物を納品するために、以下の活動を行います。

定期的な勉強会：マイルストーン5で取得・編集されたデータ・ビッグデータを用いて、日本を代表するデータ関連事業者や有識者を中心としたコンソーシアムにて、DID/VCやビッグデータがどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが必要かの検討会を実施する(計6回)

リサーチ：DID/VCのデータやビッグデータを活用する際の類似事例のリサーチなど、必要なリサーチを行う

資料作成：マイルストーン1に参画する企業・自治体で、DID/VCやビッグデータがどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが必要かのアウトプット資料を作成する

レポートの作成：クローズアウトレポート及びクローズアウトビデオの作成

成果物が以下の基準を満たした場合、「合格」とする。

- ①上記勉強会の開催
- ②上記勉強会で議論された内容をもとに、抽出したデータやビッグデータ化された情報の具体的な活用用途やその実現のために必要なツール等の課題や改善点をまとめた資料の作成及び提出

マイルストーン完了の証拠

マイルストーン完了の証拠として、以下を提出する：

- ①上記合格基準を満たした資料の作成（一般公開されコミュニティの人が自由にアクセスできる）
- ②Google DocumentまたはNotionのクローズアウトレポート：一般に公開されコミュニティの人が自由にアクセスできる
- ③クローズアウトビデオ：YouTubeでコミュニティに公開される

チームメンバーとそれぞれの役割について

プロジェクトチームのメンバーとそれぞれの役割は以下になります。

一般社団法人**meta data**コンソーシアム

会社紹介：今回のチームメンバーで構成され、データの理想的な利活用について検討し、利活用のために必要なインフラとなるツールをOSSの形で開発・管理を行うコンソーシアム型の一般社団法人。政府とのカウンターパートも務める。

役割：

- ・全体の統括を行う。
- ・定期的な勉強会を企画し、DID/VCのデータやビッグデータを活用する上でのエコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム、キャッシュポイント、提携すべき事業やサービス等に関して、理想的なあり方について議論や意見をまとめる。
- ・検討に参画する日本の様々なデータを大量に持つ大企業・スタートアップ・自治体の巻き込みを行う。
- ・DID/VCのデータやビッグデータを活用する上でのエコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム等の理想図のアウトプット資料作成を行い、フィードバック等をまとめる。
- ・データをビッグデータ化しつつ、動物病院以外の企業が利活用できるような形でデータの編集の案についてのフィードバック等をまとめる。
- ・定期的な勉強会を開催し、マイルストーン5で取得・編集されたデータ・ビッグデータを用いて、DID/VCやビッグデータがどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが必要かに関して、議論、意見をまとめる。
- ・DID/VCやビッグデータがどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが必要かのアウトプット資料作成を行い、フィードバック等をまとめる。

TOPPAN / NTTデータグループ（参画同意書未提出）/ パナソニック（検討中）

会社紹介：上述の通り

役割：

- ・定期的な勉強会に参加し、DID/VCのデータやビッグデータを活用する上でのエコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム、キャッシュポイント、提携すべき事業やサービス等に関して、理想的なあり方について議論、意見する。
- ・検討に参画する日本の様々なデータを大量に持つ大企業・スタートアップ・自治体の巻き込みに協力する。
- ・DID/VCのデータやビッグデータを活用する上でのエコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム等の理想図のアウトプット資料作成に協力し、フィードバック等を行う。
- ・データをビッグデータ化しつつ、動物病院以外の企業が利活用できるような形でデータの編集の案についてフィードバック等を行う。
- ・定期的な勉強会に参加し、マイルストーン5で取得・編集されたデータ・ビッグデータを用いて、DID/VCやビッグデータがどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが必要かに関して、議論、意見する。
- ・DID/VCやビッグデータがどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが必要かのアウトプット資料作成に協力し、フィードバック等を行う。

※その他、株式会社日立製作所、日本航空株式会社などに参画前提で決裁準備をして頂いております。

コード・フォー・ジャパン / web3エンジニア石川雄大

会社紹介: 上述の通り

役割:

- ・定期的な勉強会に参加し、DID/VCのデータやビッグデータを活用する上でのエコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム、キャッシュポイント、提携すべき事業やサービス等に関して、理想的なあり方について議論、意見する。
- ・検討に参画する日本の様々なデータを大量に持つ大企業・スタートアップ・自治体の巻き込みに協力する。
- ・DID/VCのデータやビッグデータを活用する上でのエコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム等の理想図のアウトプット資料作成に協力し、フィードバック等を行う。
- ・ツール開発及び実証実験全般のPdMを分担して行う。
- ・cardano及びDID/VC業界では定評があり、高い評価を得ている企業のサポートの下(守秘義務の関係で現時点では公開不可)、動物の電子カルテ、動物の電子カルテと紐付いたweb3ウォレットのプロトタイプ、動物のデータが使われるたびにトークンが付与されるシステムのプロトタイプの作成に関わる業務を分担して行う。
- ・データをビッグデータ化しつつ、動物病院以外の企業が利活用できるような形でデータの編集の案についてフィードバック等を行う。
- ・定期的な勉強会に参加し、マイルストーン5で取得・編集されたデータ・ビッグデータを用いて、DID/VCやビッグデータがどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが必要かに関して、議論、意見する。
- ・DID/VCやビッグデータがどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが必要かのアウトプット資料作成に協力し、フィードバック等を行う。

レイワセタ株式会社

会社紹介: 上述の通り

役割:

- ・定期的な勉強会に参加し、DID/VCのデータやビッグデータを活用する上でのエコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム、キャッシュポイント、提携すべき事業やサービス等に関して、理想的なあり方について議論、意見する。
- ・検討に参画する日本の様々なデータを大量に持つ大企業・スタートアップ・自治体の巻き込みに協力する。
- ・DID/VCのデータやビッグデータを活用する上でのエコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム等の理想図のアウトプット資料作成に協力し、フィードバック等を行う。
- ・ツール開発及び実証実験全般のPdMを分担して行う。
- ・事前問診のためのaiツールのプロトタイプ作成に関わる業務を行う。
- ・動物病院のデータ収集を行うためのDXツールのプロトタイプ作成に関わる業務を行う。
- ・データをビッグデータ化しつつ、動物病院以外の企業が利活用できるような形でデータの編集の案についてフィードバック等を行う。
- ・定期的な勉強会に参加し、マイルストーン5で取得・編集されたデータ・ビッグデータを用いて、DID/VCやビッグデータがどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが必要かに関して、議論、意見する。
- ・DID/VCやビッグデータがどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが必要かのアウトプット資料作成に協力し、フィードバック等を行う。

緑の森どうぶつ病院

会社紹介: 上述の通り

役割:

- ・定期的な勉強会に参加し、DID/VCのデータやビッグデータを活用する上でのエコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム、キャッシュポイント、提携すべき事業やサービス等に関して、理想的なあり方について議論、意見する。
- ・検討に参画する日本の様々なデータを大量に持つ大企業・スタートアップ・自治体の巻き込みに協力する。
- ・DID/VCのデータやビッグデータを活用する上でのエコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム等の理想図のアウトプット資料作成に協力し、フィードバック等を行う。
- ・ツール開発全般において、ヒアリング対応を行い、必要に応じてヒアリング対象を紹介する。

- ・実証実験において、開発されたツールの導入・利活用を行い、開示可能なデータに関して、提供できる形にして提供する。必要に応じて既に保有している動物の医療データ30万件を統計化して提供する。フィードバックを行う。
- ・必要に応じて、実証実験に参画する動物関連事業者を紹介する。
- ・データをビッグデータ化しつつ、動物病院以外の企業が利活用できるような形でのデータの編集の案についてフィードバック等を行う。
- ・定期的な勉強会に参加し、マイルストーン5で取得・編集されたデータ・ビッグデータを用いて、DID/VCやビッグデータがどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが必要かに関して、議論、意見する。
- ・DID/VCやビッグデータがどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが必要かのアウトプット資料作成に協力し、フィードバック等を行う。

ランニングホームラン株式会社

会社紹介:

ランニングホームランはクリエイティブやブランディング事業を主軸とする「コンセプトメイクカンパニー」です。企業や組織、サービスの核となるコンセプトの言語化に強みを持ち、あらゆるプロジェクトをコンセプトドリブンで推進させる形で、幅広い価値提供を行っています。

役割:

- ・プロジェクト全体のコーポレート機能を担う。
- ・必要な説明資料作成等を行う。
- ・チームビルディングを行う。

RULEMAKERS DAO コアメンバー 塩澤好貴

経歴:

今枝宗一郎国会議員秘書等を歴任

役割:

- ・データ収集及びデータ活用に関する検討、収集したデータに関しての利活用に当たっての検討において事務局機能、各社への連絡等を行う。

弁護士 本嶋孔太郎 他web3&医療系専門の弁護士

経歴:

Linked in:

<https://www.linkedin.com/in/%E5%AD%94%E5%A4%AA%E9%83%8E-%E6%9C%AC%E5%B6%8B-b13a9016a/?originalSubdomain=jp>

Facebook:<https://www.facebook.com/profile.php?id=100005443297293>

- 2017年: 東京大学法学部卒業。同年に東京大学法科大学院に入学。
- 2019年: 同法科大学院を退学し、一般社団法人zingzingを設立。
- 2020年: 弁護士登録し、日本最大級の法律事務所である森・濱田松本法律事務所に入所。
- 2022年: 第一三共株式会社に出向。
- 2024年: 森・濱田松本法律事務所退所、日本DAO協会設立

スタートアップ、テクノロジー(FinTech、web3、メタバース、データ/個人情報/AI、医療/製薬/バイオテクノロジー、一般的なR&Dなど)、規制改革・政策立案および中国に関する法務を専門とする。自身の起業経験と起業コミュニティの運営経験を活かし、スタートアップ/研究者側とVC/大企業側の両方から法的サポートを提供し、ビジネスコンサルティングの視点も取り入れている。

役割:

- ・定期的な勉強会に参加し、DID/VCのデータやビッグデータを活用する上でのエコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム、キャッシュポイント、提携すべき事業やサービス等に関して、理想的なあり方について議論、意見する。
- ・検討に参画する日本の様々なデータを大量に持つ大企業・スタートアップ・自治体の巻き込みに協力する。
- ・DID/VCのデータやビッグデータを活用する上でのデータのあり方の、エコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム等の理想図のアウトプット資料作成に協力し、フィードバック等を行う。
- ・個人情報保護法を中心とした法律面のリーガルチェック、必要な契約書の作成等を行う。
- ・データをビッグデータ化しつつ、動物病院以外の企業が利活用できるような形でデータの編集の案についてフィードバック等を行う。
- ・定期的な勉強会に参加し、マイルストーン5で取得・編集されたデータ・ビッグデータを用いて、DID/VCやビッグデータがどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが必要かに関して、議論、意見する。
- ・マイルストーン1に参画する企業・自治体で、DID/VCやビッグデータがどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが必要かのアウトプット資料作成に協力し、フィードバック等を行う。

尾身茂

経歴: 上述の通り

役割:

医療領域、医療データ領域の第一人者として、以下を行う

- ・定期的な勉強会に参加し、DID/VCのデータやビッグデータを活用する上でのエコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム、キャッシュポイント、提携すべき事業やサービス等に関して、理想的なあり方について議論、意見する。
- ・検討に参画する日本の様々なデータを大量に持つ大企業・スタートアップ・自治体の巻き込みに協力する。
- ・DID/VCのデータやビッグデータを活用する上でのエコシステム内のインセンティブ設計、システム変更等の意思決定アルゴリズム等の理想図のアウトプット資料作成に協力し、フィードバック等を行う。
- ・定期的な勉強会に参加し、マイルストーン5で取得・編集されたデータ・ビッグデータを用いて、DID/VCやビッグデータがどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが必要かに関して、議論、意見する。
- ・マイルストーン1に参画する企業・自治体で、DID/VCやビッグデータがどのような形で活用できそうか、活用を進める上でどのようなai/web3ツールが必要かのアウトプット資料作成に協力し、フィードバック等を行う。

長原瑠青

経歴:

高校生の頃からカルダノに関わり、17歳でカルダノのバリデーターに就任。

カルダノ系の情報発信に特化したYouTubeも発信しており、登録者数はカルダノ系YouTuberの中では上位。Intersect Japan Hubのコアメンバー、アドバイザーとして活動しており、福岡でのイベントや勉強会を多数開催。

役割:

- ・本プロジェクトの円滑な進行のために、Cardano事務局とのやりとりをメインに担当

株式会社 HLD Lab 岡田大士郎

経歴:

<https://hld-lab.jp/>

<https://www.facebook.com/daishiro.okada>

米国スクウェア・エニックス (Square Enix, Inc) 元社長・COO、株式会社HLD Lab代表取締役社長・CEO、一般社団法人ファシリティ・オフィスサービスコンソーシアム (FOSC) 副代表理事、一般社団法人日本ライフシフト協会理事、一般社団法人ゲームカルチャー協会理事、一般社団法人日本アーティストエイド協会理事長。役割:

- ・検討に参画する日本の様々なデータを大量に持つ大企業・スタートアップ・自治体の巻き込みに協力する。

予算とコストについて(詳細は12月に確定)

総額199万9000ADA

Hourly rate (general) : \$50 = 150ADA

Hourly rate (Professional) : \$300 = 900ADA

Milestone 1: コンソーシアムの立ち上げ・データ取扱に関する理論検討 30万ADA

定期的な勉強会及びその開催準備(140時間): 42,000ADA

関連事業者の巻き込みのためのプロモーション(160時間): 48,000ADA

リサーチ(140時間): 42,000ADA

資料作成(140時間): 42,000ADA

ITツール(20時間): 6,000ADA

交通費・会場費・宿泊費(67時間): 20,100ADA

法務・会計・労務(30時間): 2,700ADA

年間アドバイザー(月3時間): 32400ADA×3人=97,200ADA

Milestone 2: 実証実験に必要なツール開発のためのリサーチ

24万9000ADA

	ヒアリング	リサーチ	整理・分析
・動物の電子カルテ・ライフログ(事前問診のためのaiツールも作成)	15,000	15,000	24,000
・動物の電子カルテと紐付いたweb3ウォレット	15,000	15,000	18,000
・動物のデータが使われるたびにトークンが付与されるシステム	15,000	15,000	21,000
・動物病院のデータ収集を行うためのDXツール	15,000	15,000	18,000

ヒアリング(100時間): 60,000ADA

リサーチ(200時間): 60,000ADA

整理及び分析(270時間): 81,000ADA

トークン設計(30時間): 9,000ADA

ITツール: 9,000ADA

交通費・会場費・宿泊費: 21,000ADA

法務・会計・労務(10時間): 9,000ADA

Milestone 3: 実証実験に必要なツール開発のための仕様書・UI/UXの確定

21万ADA

	仕様書の作成	mocの作成
・動物の電子カルテ・ライフログ(事前問診のためのaiツールも作成)	18,000	27,000
・動物の電子カルテと紐付いたweb3ウォレット	15,000	27,000
・動物のデータが使われるたびにトークンが付与されるシステム	18,000	24,000
・動物病院のデータ収集を行うためのDXツール	15,000	27,000

仕様書作成(220時間):66,000ADA
moc作成(350時間):105,000ADA
ITツール:9,000ADA
交通費・会場費・宿泊費:21,000ADA
法務・会計・労務(10時間):9,000ADA

Milestone 4: 実証実験に必要なツール開発

60万ADA

	フロントの開発	バックエンドの開発	ブロックチェーンの開発	ユニットテスト マニュアルテスト バグ修正	デモビデオの作成
・動物の電子カルテ・ライフログ(事前問診のためのaiツールも作成)	45,000	63,000	18,000	42,000	9,000
・動物の電子カルテと紐付いたweb3ウォレット	54,000	48,000	14,000	15,000	7,000
・動物のデータが使われるたびにトークンが付与されるシステム	33,000	51,000	28,000	21,000	7,000
・動物病院のデータ収集を行うためのDXツール	24,000	48,000		27,000	7,000

フロント開発(520時間):156,000ADA
バックエンド開発(700時間):210,000ADA
ブロックチェーン開発(200時間):60,000ADA
各種テスト/バグ修正(350時間):105,000ADA
デモビデオ作成(100時間):30,000ADA
ITツール:9,000ADA
交通費・会場費・宿泊費:21,000ADA
法務・会計・労務(10時間):9,000ADA

Milestone 5: 開発したツールを用いて実証実験を行う

30万ADA

ユーザーオンボーディング(140時間):42,000ADA
実証実験(ツールの導入と、実際の活用)(260時間):78,000ADA
データをビッグデータ化しつつ、動物病院以外の企業が利活用できるような形でのデータの編集(必要に応じて、緑の森動物病院が保有する既存の30万件の動物医療データも活用する)(180時間):54,000ADA
ユーザーの受け入れテスト(70時間):21,000ADA
必要があればバグの修正(70時間):21,000ADA
ユーザーフィードバックの分析(80時間):24,000ADA
実証実験のレポートの作成(70時間):21,000ADA
ITツール:9,000ADA
交通費・会場費・宿泊費:21,000ADA
法務・会計・労務(10時間):9,000ADA

Milestone final:収集したデータに関しての利活用にあたっての検討

30万ADA

定期的な勉強会(開催準備含む)(150時間):45,000ADA
リサーチ(250時間):75,000ADA
資料作成(180時間):54,000ADA
レポートの作成(230時間):69,000ADA
ITツール:9,000ADA
交通費・会場費・宿泊費:21,000ADA
法務・会計・労務(30時間):27,000ADA

バッファー

4万ADA

プロジェクトのコストは、カルダノのエコシステムによってどのように費用対効果を表していますか？

本プロジェクトにおいてかかる費用、及びその内訳については前項にて記載した通りですが、それを上回る経済効果をCardanoに対してもたらすことができると考えています。その理由としては下記の通りです。

1. 国内のデータ関連事業をリードする3兆円企業であるNTTデータグループの参画がすでに決定しており、国内のマーケットに対してCardanoのブロックチェーン認知度の向上、興味喚起が期待できる。
2. 緑の森動物病院での実証実験後には他の動物病院への展開も見越しており、業界内への展開が進めば、未だweb3どころかDXも広く浸透していない約1.7兆円にも及ぶ日本のペット市場において、Cardanoがブロックチェーンのデファクトスタンダードとなり得る。
3. 今回のマイルストーンには含めていないものの、プロジェクトとしてはペット市場だけでなく、人の健康/医療領域との連携を皮切りに、業界を横断してデータ利活用のパッケージとしての展開を構想している。そのため、Web3テクノロジーに注目が集まりながらも実装が進んでいない日本において、国として推し進める実装がCardanoブロックチェーンを基盤として進む可能性を提供できる。

以上を鑑みると、今回申請する金額は少額ではありませんが、それでも本プロジェクトがスケールした先でもたらす、Cardanoブロックチェーンが日本において得られるポジションやベネフィットはそれを大きく上回るものであり、高い費用対効果をもたらすものであると確信しています。